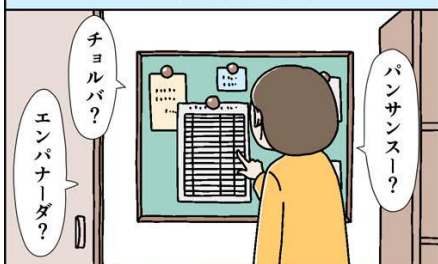


ユウタとコハル

画：ゴハチ



暮らしの中の千夜一話

昔から山野草が好きだった。花に派手さはないけれど、その姿はかれんで繊細。春に若葉がもゆり、花が咲き、実りの秋を越えて冬に葉が落ちる一年草は、素朴なたたずまいながら、自分の足でスッと立っているような力強さが魅力である。山歩きのたびに少しずつ集めた山野草を植えた庭の一角が、私の憩いの場であった。特に目をかけているのはミヤコワスレだ。春の野に咲く菊という意味で「野春菊」や「東菊」とも呼ばれるミヤコワスレには、物悲しい物語がある。その名前の由来は、承久の乱で佐渡に流された順徳天皇が詠んだと伝わる



歌にちなんでいるそうだ。「いかにして契りおきけむ白菊を都忘れと名づくるも憂し」。順徳天皇が島流しにあった佐渡の配所の庭は草ぼうぼうだったが、そこに小さな紫色の野菊が咲いているのを見つけた。「紫は京の都を代表する美しい色だ。しかし私はすべてをあきらめている。おまえが私のそばで咲いていてくれたら、私は京の都のことを忘れられるかもしれない。今日からおまえを“都忘れ”と呼ぶことにしよう」。そんな歌を詠んだほど順徳天皇の孤独は深かったのだろう。佐渡で過ごした21年間を歌道と仏道に捧げ、46歳の若さで崩御した順徳天皇。その死は、都恋しさに耐えきれなかった末の絶食による自死だと伝わっている。ミヤコワスレの花言葉が「また会う日まで」や「しばしの別れ」なのは、順徳天皇の逸話に由来するのかもしれない。私の憩いの場で、間もなくミヤコワスレが咲き始める。ミヤコワスレの花言葉を教えてくれた祖母も山野草が好きだった。薄紫、青紫、白、ピンク。直径3センチほどの小さな花に、人それぞれの思いが重なる。

ナットク! 気になっていたあの言葉

今月の気になっていたあの言葉：【プロバイダ責任制限法】

インターネット上の誹謗（ひぼう）中傷などの権利侵害に関する損害賠償責任や発信者情報開示請求権などを定めた法律を指す。SNS利用者の約18%が被害の経験があると回答（2023年調査）。政府は対策強化のために不適切な投稿の削除要請の対応や、削除基準の公表などを運営事業者に義務付ける方針を固めている。

— 弊社のモットー —

私共はあなた様の想いに誠心誠意、奉仕致します。つまり、愚直に、真面目に、地道に、誠実に、謙虚に、スピード感を持ってことにあたります。

株式会社 エルフォルク

〒733-0002
 広島市西区楠木町3丁目10-22
 TEL : 082-230-8870 FAX : 082-230-8871
<https://www.tent-erfolg.co.jp>